

ポスター発表P-13

理学療法学科学生の死生観における語りの分析
-ターミナルケア理学療法論における
Palliative Care Educationの取り組みから-

前野竜太郎¹⁾ 津嶋 惠輔²⁾ 佐藤 秀紀¹⁾
石川 玲³⁾

1) 青森県立保健大学

2) 国立弘前病院

3) 弘前大学

Key Words : ①ターミナルケア理学療法論
② Palliative Care Education ③死生観

I. はじめに

Palliative Care Education を含め、「死の準備教育」に関する調査研究報告は、近年盛んに見られる。しかし、理学療法学科のリハビリテーションを学ぶ学生が、どのように死生観をそして生を見つめているかを明らかにした研究は、津嶋他による研究報告のみである¹⁾。久保他による理学療法学科学生へのターミナルケアに関する意識調査等がみられるが²⁾、看護学領域における研究報告に比べ、その数は圧倒的に少ない。

今回は、このターミナルケア理学療法論において課さ

れた学生による「生と死」をみつめたレポートをデータとし、これを分析していくことを研究の中心に据えた。ターミナルケアPT論にはどのような教育的効果があったのかについて、学生のレポートによる「語り」のなかから分析・解釈を試み、ターミナルケアPT論の今後について考察したので報告する。

II. 研究目的及び対象

ターミナルケア理学療法論において課された学生による「生と死」をみつめたレポートをデータとし、これを分析していくことを研究目的とする。併せて、ターミナルケアPT論にはどのような教育的効果があったのかについて、学生のレポートによる「語り」のなかから分析・解釈を試み、ターミナルケアPT論の今後の課題について考察することを目的とする。

本学理学療法学科 3～4期生；計44名のレポートを参照した。

III. 研究方法

学生より提出されたレポートを、全てPCに取り込み、データを段落ごとに分割し、それをKJ法にて分類しまとめなおした。項目ごとにまとめなおされたデータを、分析・解釈した。

IV. 研究等における倫理的配慮について

本研究は、生の「語り」をそのままデータとして使用し、統計処理は行わない。このため、プライバシーに関する情報は、氏名の削除、固有名詞の変更はもちろん、必要によっては内容の一部変更も行い、固有の学生のレポートとして特定できないように十分な配慮を行った。学生には、全て十分な説明をしたうえで承諾書に署名してもらう。もし不承諾の学生がいた場合、その個人の全データを破棄することを条件とした。

V. 結果と分析・解釈

レポートの内容について、KJ法を用いてさらに詳細に分類した。その結果、大きく5つの項目に分類することができた。

1. ターミナルケアにおける家族や周りの人の支えの大切さへの気づき
2. 自身の病い体験や家族を看取った経験からみたターミナルケア
3. 死から生をみつめることへのとまどいや自問自答
4. ターミナルケアにおける種々の課題とターミナルケア理学療法
5. 死から生をみつめたことで得た学生の気づき

VI. 考察とまとめ

学生レポート全体に共通する鍵概念を大枠でまとめるならば、「主人公の死という事態に戸惑いながら、しかしその生き方に其々意味を汲み取り、主人公の家族や彼氏の支えに感動している。そして、専門職としてどうしていけばよいか考察し、死に向かう存在として自分自身もどう生きていけばよいか試行錯誤している。」というのが、学生のレポート全体に共通している枠組みといえるのではないだろうか。自らに病い体験があるものや、家族を看取った経験があるものと、一方で身近にそういった経験のなかった者との間で語りに若干の違いがあるかもしれない。しかし、課題のエピソード「着られなかったウエディングドレス」の悲劇的な別離のストーリーに受けた学生の反響は、予想していた以上に大きかったといえるであろう。正確には「死の準備教育」ではないが、学生に生と死を見つめる機会を与えるにはよいテキストであったように思われる。

VII. 脚注及び参考文献

- 1) 津嶋恵輔、前野竜太郎、佐藤秀紀、石川玲「青森県立保健大学理学療法学科学生に於ける“死生観”考 - Palliative Care EducationのEarly Exposureとして -」、セミナー医療と社会第25号、p65-71、2004
- 2) 久保晃、潮見泰蔵、丸山仁司、「終末期のケアに関する理学療法学科学生の意識調査」、理学療法学28巻、Suppl. 2 Page61、2001. 4
- 3) 大田仁史、「終末期リハビリテーション」、荘道社、p56、2002
- 4) 鳥居昭久、高尾公矢他「理学療法士教育におけるDeath Educationについて」、理学療法学31巻、Suppl. 2 p299、2004. 4

VIII. 発表

臨床死生学会、日本理学療法学会にて学会発表予定。臨床死生学に学術論文として投稿